M-TEC インフォメーション

246 Vol.

2025 年 6 月

特集：かゆみやアレルギーを引き起こすダニ類

巻頭言

備蓄米だ、減反廃止だ、ミニマムアクセス米の輸入だ、といろいろ日本の主食であるお米について巷では大変喧しいですが、お米を生産するために一番重要な水についてのちょっと違った角度から興味深い記事が日経新聞に掲載されていましたので、少しお話しします。

みなさんは「バーチャルウオーター貿易」と言う言葉をご存じですか。私は初めて耳にしました。その意味は「穀物や肉類を生産するために使った水をこれらの食料とあわせて輸出入したとみなす概念」で、これをバーチャルウオーター貿易と呼ぶそうです。1 kgの小麦粉を生産するには、その 2000 倍の 2000 ℓ つまり 2000 kgの水が必要で、牛肉に至っては 1kg 生産するのに 15000 倍の 15000 ℓ 必要です。それは飲み水だけでなく、飼料としてのトウモロコシ等を作るのにも水が必要で、さらに牛舎を清掃するにも水が必要だからです。因みにお米は 1kg 当たり 2500 ℓ 必要です。そして貿易ですから、この水を輸出入していると考えるわけですが、牛肉や小麦・トウモロコシそして乳製品など殆どを輸入に頼っている食糧自給率の低い日本は、当然バーチャルウオーターの「純輸入国」と云うことになります。見えない所で、日本は多くの水を海外に依存しているのです。そして純輸入国の一番が中国で、純輸出国の一番はブラジルです。

何が言いたいかと申しますと、食糧の多くを輸入し食糧自給率 38%の日本は輸入先の政情や紛争、干ばつや洪水などの気候変動に食糧の確保を左右され、常に食料安全保障が潜在的な脅威にさらされていると云うことです。これは昔から常に言われていることではありますが、日本の政治は、一向にこの潜在的な危機に対応しようとする様子はみえません。それどころか今まで主食であるお米を減反によって生産を減らしてきた挙句に、今回のお米不足による価格の高騰です。そして国民が怒っていると感じると、その対策と言って今度は備蓄米（でもこれ、税金で買ったお米をまた国民からお金を取って販売しているんですよね、不思議です）の放出で価格を下げようとする、何とも近視眼的なドタバタで情けない対応をしています。お米は日本人の主食です。この時代に主食のお米が高騰しているからと言って、本来であれば食べる事の無い古い米を国民に食べさせて怒りを収めようとする、これでは戦後の食糧払い下げの様です。政治の責任でこんなことになっているのに国民は怒らないのか、みじめではないのか、と感じます。

日本は潜在的に一次産業の高い能力は持っていると思います。今すぐにでも考え方を変え、戦略的に一次産業の改革を推し進め、食糧自給率を高めなければ、本当に危機的な状況になるのではないかと恐怖すら感じます。

こんな時に中国人が日本の畑で中国野菜を生産し、儲けているとか。「本当かい」

（雅）

MARUMA 株式会社マルマ

Vol.246, 2025 年 6 月

かゆみやアレルギーを引き起こすダニ類

6 月は梅雨のジメジメした時期に入り、室内の湿度が高くなりやすく、微小なダニ類が多くなる季節です。実は、部屋の埃の中にもダニ類が多数生息していると言われています。あるデータによると埃 1g 当たり 1000～2000 匹ものダニ類が生息しており、アレルギーの原因になることがあります。また、住宅の天井裏などに鳥やネズミが住み着き、そこに寄生しているダニ類が人を刺すこともあります。今回のエムテックインフォメーションでは、かゆみやアレルギーを引き起こすダニ類についてご紹介します。

ダニ類による被害

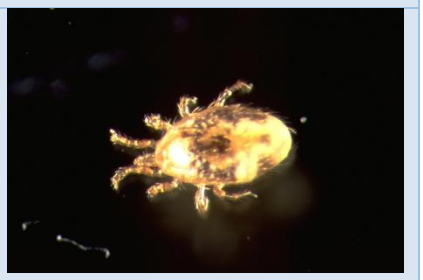
ダニ類は世界中に 4～5 万種以上もいると言われていますが、人間に被害を及ぼす種類はごく一部です。住宅の中での被害として多いのは、ダニの死骸やフン、抜け殻などのアレルゲンによって、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患を引き起こす事例です。

また、一部には刺咬・吸血性の種類もあり、刺されることによって赤く腫れて強いかゆみを感じることがあります。かゆみなどの症状は刺されてから半日～1 日ほど経ってから現れ、1 週間程度続くことが多いです。

足への刺咬被害（ツメダニ）

ダニ類の種類

住宅で被害を及ぼすダニ類には主に以下が挙げられ、それぞれ被害や発生場所が異なります。特に 6 月頃からは刺咬・吸血性の種類がよく見られるようになります。

種類	ヒョウヒダニ類	ツメダニ類	イエダニ・トリサシダニ
写真			
被害	ダニの体、死骸、糞を吸引することによる**アレルギー性疾患**	刺咬・吸血による**かゆみ**	刺咬・吸血による**かゆみ**、**病原菌の伝搬**の可能性有り
餌・発生源	**埃**、フケなどの有機物全般	**他のダニ**など（ヒョウヒダニやチャタテムシ）	**ネズミ**（イエダニ）、**鳥類**（トリサシダニ）
発生場所	寝具、じゅうたん、カーペット、畳、ソファーなど	寝具、じゅうたん、カーペット、畳、ソファーなど	天井裏、床下、換気扇、戸袋など（ネズミの生息場所や鳥の巣）
発生時期	1 年中	初夏～秋頃（6～9 月）が多い	初夏～秋頃（6～9 月）が多い

（写真引用：日本ペストコントロール協会）

ダニ類の駆除方法と予防

ダニ類の駆除方法には、殺虫剤散布、熱乾燥、清掃などの他に、ダニの種類によってはネズミの駆除や鳥の巣撤去までが必要になる場合があります。

駆除・予防方法	対象	方法
殺虫剤散布	ヒョウヒダニ、ツメダニ、イエダニ、トリサシダニなどダニ全般	空間噴霧（燻煙や ULV 処理）などによる殺虫 ピレスロイド系や有機リン系殺虫剤を選択
熱乾燥	ヒョウヒダニ、ツメダニ	布団乾燥機や加熱乾燥車による熱駆除
清掃	ヒョウヒダニ、ツメダニ	掃除機による埃の除去（ダニの餌の除去）
除湿・乾燥・天日干し	ヒョウヒダニ、ツメダニ	除湿機での除湿、換気による乾燥、晴れた日に屋外で寝具の天日干し　など
ネズミの駆除	イエダニ	宿主であるネズミの駆除
鳥の巣撤去	トリサシダニ	発生源である鳥の巣の撤去

図 空間噴霧による殺虫

図 イエダニの宿主である
ネズミの駆除

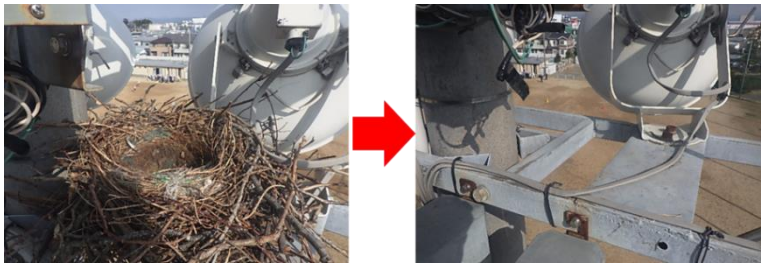


図 トリサシダニが発生した鳥の巣の撤去
（左：撤去前、右：撤去後）

ダニ類の検査

ダニ類による被害が生じた場合、種類に応じて駆除方法が異なるため、種類の特定が重要です。ダニの検査方法には埃からダニを分離して計数する方法（分離法）や、ダニ自体ではなくダニアレルゲンを簡易的に測定する方法（簡易検査キット）がありますので用途に応じて選択します。

＜分離法＞

埃からダニ類を分離して計数する方法です。掃除機で室内の埃ごとダニ類を吸い取り、それを振るいや食塩水で分離し、顕微鏡で計数します。検出精度が高く、**刺咬・吸血性など様々なダニ類が検出・特定できます**。

図 分離法の様子

＜簡易検査キット＞

検査キットを用いてダニアレルゲンを測定する簡易的な方法です。手軽かつ迅速に判定ができます。学校環境衛生基準では年 1 回の検査義務があり、それに適合した商品（マイティチェッカー等）が出ています。なお、アレルゲンを測定しているため、**刺咬・吸血性のダニ類などは検出・特定できません**。

図 簡易検査キットの使用方法
（引用：住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社）

ダニの駆除や検査は、弊社までお問い合わせ下さい。

害虫獣紹介

ヒトスジシマカ

黒と白の縞模様が特徴的で日本で最も見かける種であるヒトスジシマカは、公園や墓地などのやぶに生息していることから、別名「やぶ蚊」とも言われています。

生態

ヒトスジシマカは、体長約 4.5mm で体色黒、胸背中央に白色の 1 本の縦線と、胸背後方に W 字型の白斑が特徴的です。日本では宮城県以南の日本各地に分布しています。水槽、雨水桝、バケツ、空き缶、竹の切株などの小水域に発生します。卵は乾燥に耐性があり、雨などで水位が上がった際に孵化します。孵化期間は浸水後から 3 日～1 ヶ月以上、孵化から羽化までは 8～40 日と、発育期間は気温によって大幅に異なります。越冬は卵の状態で行います。

昼間活動性で、吸血活動の最盛期は、午後 4～6 時、温度 22～26℃が最適となります。屋内にも侵入し、夜間電灯下でも吸血することがあります。

図　ヒトスジシマカ
Aedes albopictus
（出典：ペストコントロール協会）

被害

人間に近寄ってくるため、羽音が煩わしく不快感を与えます。吸血されることで刺された部分でアレルギー反応が起こり、痒みが生じます。また、感染症であるジカウイルス、デング熱ウイルスの媒介に関与していることも知られています。

対策

発生対策として、人口容器や水槽などを屋外に放置せず、不要な水たまりを作らないことが重要です。幼虫は小水域に生息しているため、そのような箇所に IGR 剤（昆虫成長抑制剤）を使用することで駆除が可能です。成虫対策としては、網戸や防虫成分を含んだネットを使用して屋内への侵入を防ぐことや蚊取り線香などのピレスロイド系の薬剤を用いての駆除が効果的です。公園や墓地などでは、成虫の休息地となる草むらや茂みへの殺虫剤の散布、もしくは草刈りを行い休息地を除去するといった対策で、飛来数を減少させることができます。

食中毒情報

今月は、件数としてはカンピロバクター、患者数としてはノロウイルスを原因とした食中毒が最も多く発生していました。ノロウイルス食中毒の発生は減少傾向ですが、気温の上昇に伴って細菌性食中毒が増えてきました。今月もウエルシュ菌を原因とした食中毒で 100 人以上の患者が発生しています。食品の温度管理が特に重要になる季節になるため、管理に問題が無いか再確認をお願いします。

先月から今月にかけて、次亜塩素酸ナトリウムの誤使用事件が 2 件発生していました。1 件はレストランで酢の容器に誤って詰めて提供してしまったことが原因で、もう 1 件は飲料用の容器に入れて誤使用したことが原因でした。容器と内容物を入れ間違えないように注意するのは当然ですが、食用や飲用の容器（ペットボトルなど）を再利用して消毒剤を入れることは、誤使用の原因になりやすいため禁止してください。

全国食中毒発生状況
（5/15～6/15 新聞発表分等）

原因物質	件数	患者数
カンピロバクター	10	49
ノロウイルス	9	153
寄生虫	5	19
サルモネラ属菌	4	106
不明・その他	13	237

『ひとつ，ふたつ･･･快適環境を生み出します』
MARUMA 株式会社マルマ　M TEC エムテック衛生検査所
メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本　　社　／　〒430-0807　静岡県浜松市中央区佐藤 2-5-11
東京支店　／　〒194-0005　東京都町田市南町田 2-15-14
静岡支店　／　〒422-8046　静岡県静岡市駿河区中島 960-1
宇都宮支店　／　〒321-0139　栃木県宇都宮市若松原 2-2-8
岡崎支店　／　〒444-0802　愛知県岡崎市美合町字北屋敷 59-3-101
名古屋支店　／　〒496-0027　愛知県津島市津島北新開 234-2
大阪支店　／　〒555-0032　大阪府大阪市西淀川区大和田 3-5-6
福岡支店　／　〒816-0922　福岡県大野城市山田 2-18-53-B103